

件の取扱法や、(四)寺泊六日間の感慨に關する樗牛博士の叙述を批判修正せられた事や、(五)特に身延入山動機の詳細なる考察や、(六)戒壇思想に關する意見等は確かに博士獨開の研究であると思はれ、その觀察の鋭敏にしてその所論の穩健なる、從來の日蓮研究書と大に趣を異にした所多きを覺へ、將來に於ける日蓮研究者を刺戟し開發する所願る大なるものなるを信じた。

而して最後に私は將來(日蓮の祈禱に對する懷抱や、(二)日蓮の未來に對する現實的胸底が博士の熱心なる研究に依て早く益々明白に澄清調整せられん日を期待せざるを得ぬ。そして又「斷定」と「異義」との關係(百四十五頁)に就ては常に痛切に迷暗と不安とに襲はれつゝある弱き私は、元より本書の性質上域外の問題ではあるが、何か機會あらばその關係解決の鍵鑰を與へられん事を御願し度いのである。(東京博文館發行、菊版五七二頁、定價貳圓參拾錢)(本田義英)。

### 精神科學の基本問題

哲學叢書  
第八編

文學士 上 野直 昭著

精神科學の研究者にとつて、其の基本問題の論究は、必要缺くべからざる重要な事柄であるにも拘らず、問題の解決が極めて難しいためでもあらうが、未だ明確な概念が一般に行き渡つておらぬ際に、本書の表はれた事は、先づ以て度費に堪へない。本書は、著者が其の序文の冒頭に於て明かに斷はれて居らるゝ様に、ウン卜の論理學第三卷の始めにある、第一章

Die allgemeinen Grundlagen der Geisteswissenschaften

新著紹介

全部を譯出されたものである。『本國のドイツ人すら難解とし、無味とするウン卜の思想』を、極めて忠實に、しかも、平易に譯出しようと試みられた努力の跡は、到る處に見受けられる。もとよりウン卜の思想其ものが極めてわかりにくいから其の忠實なる翻譯に向つて、「平易」とか「面白味」とかを要求するのは、要求する方の無理であらう、原著が既に精讀を要する論述である以上、其の翻譯たる本書に對しても、よろしく粗讀を讀まねばならぬ。そして難解な原著をかくまでに、明確に譯出された譯者の努力に多大の敬意を拂ふべきだと思ふ。殊に所々に註釋を加へて本文の解釋に萬全を期せられておる事は、たゞに原著に對して忠實なやり方である許である許りでなく、讀者に向つても極めて親切な態度である。篤學なる著者の努力の結晶とも見るべき本書を是非精讀せん事を御すゝめする。(東京神田區神保町一六、岩波書店發行、壹圓貳拾錢、深田武)

### ワオードの社會學

藤森達 三譯

社會學は元來未だ幼稚の學問であるが、日本に於ては殊に幼稚な學問である。從ひて之に關する著書譯書の數も極めて乏しい、此點からして考ふると漸なる社會學書の公刊は我國斯學界の爲に甚だ善ぶ可き事と云はなければならぬ。それは如何なる價值如何なる程度のものたるを問はない事であるが、殊に其内容が優秀のものなればなほ更の事である。此意味に於て吾人は此「ワオードの社會學」の發行を深く學界の爲に祝し譯者に向ひて其勞を多とせざるを得ない。原著はワオードの體系をデイレレーが約説したる

もの、ウォードの社會學界に於ける地位は今更説くまでもなく、デイーレーはまた約説者として其人を得て居ると云ふ事が出来やう。生物學的知識に根柢を置けるウォードの社會學の大體を知りたいと云ふ人には、最も恰好の書である。今藤森氏の手に譯せられて邦語によりて其内容に接するを得るに至つた事は誠に喜ばしい事である。たゞ譯文が少し碎けてゐて平明であつたならばと思ふ。少くとも初學の人にとりては難解の感を免れざる事を遺憾とせざるを得ない。定價一圓五十錢、東京神田中猿樂町一、巖松堂書店發行（高田保馬）。

### 靈魂信仰と祖先崇拜

文學士 桑田 芳藏著

日本に於ける心理學上の獨創的研究を集成するために刊行された『心理叢書』の第一冊である。靈魂の信仰と祖先崇拜につきては數十年前から宗教起源論又は社會進化論の立場から、或は文化史的に或は人類學的に研究され、其具體的記述並に説明は既に數多く公けにせられて居るが、是等現象の內面的動機を純粹心理學的に考察することはヴント氏意外に餘り多く企てられて居ない、殊に東洋に於ける最も發達した形式に此方法を以て研究したものは全くないのである。本書は此要求に應じて公けにせられたものと思はれる。著者は此民族心理學の立脚地を嚴守して、一切の價值論を離れて純科學的觀察を爲されて居る。

内容は四篇に分たれ、第一篇に靈魂信仰が不來いかにして生ぜしやを觀察し。第二篇にトイテミズムの性質と起源とを論じて、動物祖先が人間先祖の前階を成すことを知らしめ、第三に靈魂信仰

に自然に作り起るべき他界表象を研究し、最後に第四篇に祖先崇拜の起源と發展とを説述され、尙餘論として祖先崇拜の運命につきて一言せられて居る。

論の結構はヴント氏に依つて出發せられたのであらうけれども、行論悉く根本資料と參照し、師の説を補充改訂された點が甚だ多い。論斷穩健極めて平明に、然も飽くまで眞學な科學者の態度を保持されて居る。本書に引用された著述の多くは千頁以上数千頁に及ぶ廣幹なものであるのに、僅々百七十頁の内に要領を悉く包攝されたのは非常な功績と云はねばならん。東京市外上駒込一二〇心理學研究會出版。定價七十五錢。（石神徳門）

### 寄贈書籍雜誌

- |                               |                           |          |
|-------------------------------|---------------------------|----------|
| 生命の一路                         | 昨上賢造著                     | 洛陽       |
| 我等何を信すべき乎                     | トルストイ著<br>加藤一夫譯           | 同        |
| ハインツ評傳                        | 文學士 藤浪由之著                 | 同        |
| 靈魂信仰と祖先崇拜                     | 文學士 桑田芳藏著                 | 心理研究會出版部 |
| 現代批判第二輯                       | 箱垣末松外三氏著                  |          |
| 哲學雜誌                          | 心理研究、丁酉倫理會講演集、東洋哲學、六合雜誌、  |          |
| 東亞之光                          | 神學之研究、早稻田文學、教育、普通教育、教育研究、 |          |
| 東京教育                          | 奈良縣教育、岐阜縣教育、三重教育、長崎縣教育雜誌、 |          |
| 愛媛教育                          | 信濃教育、佐賀縣教育、藝備教育、宮城教育、静岡縣  |          |
| 教育、大崎學報、黒潮教育學術界、教育界、學校教育、第三帝國 |                           |          |